

主人公は野菜 コールラビ

オリジナル絵本、磐田の農園が作成

磐田市の農園アグレスノバが、静岡文化芸術大でデザインを学ぶ学生の協力を得て、欧州の野菜コールラビを主人公にしたオリジナル絵本を作った。同農園の花積義人代表(30)らが27日、市役所を訪れ、児童の食育に生かしてほしいと28冊を市に寄贈した。

(勝間田秀樹)

文化芸大生が協力 市に寄贈

アブラナ科のコールラビは、球状の茎を食べる冬の野菜で甘味が豊富。同農園では、同市西平松などで年4万球を生産し、市の学校給食でもポトフに使われている。

絵本「ラビくんのだいぼうけん」は、キャベツ畑の中に一人だけいたコールラビのラビくんが、自分はキャベツではないと知り、自分探しの旅に出るお話。21巻四方の34巻で、オールカラー。キャラクター、ストーリーは同大デザイン学部3年の石田裕奈さん(20)が手がけた。花積代表の兄克明さん(36)が2年前、同大で農業とデザインの授業の講師を務めた際、コールラビを始め地場野菜を広く知ってもらう方法がないか学生に問いかけ、石田さんが絵本化を提案した。

花積代表は「磐田市の野菜に関心を高めてもらい、ゆくゆくは農業に興味をもってもらえたらうれしい」。石田さんは「コールラビは見た目が宇宙人のようでかわいい。これまでの課題で描いてきた絵の技術を生かした」と話した。絵本は小学校、図書館に置かれる。

野菜のコールラビを主人公にした絵本を寄贈した花積代表(右)と絵本を作った石田さん(左)＝磐田市役所で

